

トレーナー認定審査シート

ティーチャック評価項目

NO	<準備・知識・知見評価>	低レベル:1	中レベル:2	高レベル:3
1	対面教育時のアイコンタクト	効果的にアイコンタクトがとれる	アイコンタクトできない。 自分の訴えに対してうなづく受講者がいない。	アイコンタクトを図ろうとするが受講者によってうなづく人もいれば、うなづかない人もいる。 アイコンタクトをとったらどの受講者もうなづいてくれる。
2	質問方法	ジグザグ法等で質問を行なえる	質問をしない	質問は少しするが、ジグザグ法などはとれない。 質問をジグザグ法などでどんだん行う。
3	ボディランゲージ	講習で伝えたい内容を自分の体で大きく表現できる。 貧乏ゆすりなど受講生に不快感を与える動作をしない。 講習時の立ち位置が適切である。 講習時、身体が左右や前後に揺れながら講義を行うことはなく、自然に振り舞える。	マイナス表現を複数とる。 体をのけぞらす。 ポケットに手を入れる。 手を前で組む。 腕組み 足組する。 ポインタをぐるぐる回す。	講習内容に応じて、少しボディランゲージがとれる。 立ち位置は適切であるがたまに揺れたりする。 ビジュアルハンド(下降、昇圧、ストライクゾーン、ホームラン等)の表現を豊かに盛り込んで講習できる。 適切な立ち位置で、受講者や講義内容に合わせて適切に会場を移動できる。不自然な揺れはない。
4	声の大きさ	広い会場でも、マイクに頼らず、はっきりと十分な大きな声で、発声できる。 もごもごした表現で何を言っているのか不明ということはない。	声が小さく、聞き取りづらい	声量はあるが、堂々とした発言できないことがまれにある。 はっきり十分な声量で、言っている内容がよく聞き取れる。
5	話の間	説明と説明の間や質疑応答の際、間がうまくとれる。	言葉を羅列して一方的な説明をする。	間を適切に意識して説明できる。 講習中受講者の表情や質問に対する回答状況から、無意識に間をつくることができる。
6	非単語	フィラー(エー あの その)は言わない。	フィラーを連発させる。	1回/分以内程度でフィラーが出る。 フィラーは出ない。
7	担当章の理解	自分の講習担当章のポイントを理解している。	担当章を話すのが精一杯である。	担当章のポイントをある程度把握している。 担当章のポイントを全て把握している。
8	自社の装置・作業の危険の知見や情報	自社製品や作業時危険箇所とその対策が提示できる。	自社製品や作業時の危険箇所を提示できず、危険回避方法も提示できない。	1件程度、自社製品や作業時の危険箇所、危険回避方法を提示できる。 自社装置に関わる主たる危険源や作業上の危険性の知見を複数提示できる。講義中、危険源の場所の写真を提示し、危険回避方法を教えることができる。
9	自社もしくは業界の事故事例の概要や情報	自社もしくは業界の事故例を説明し危険回避方法を提示できる。	自社もしくは業界の事故例や危険回避方を提示できない。	1件程度自社もしくは業界の事故例や危険回避方を提示できる。 自社で発生した事故事例の概要を把握し、受講者に説明できる。またその対策方法も合わせて説明できる。自社で事故事例がない場合は、一般的に公開されている事故事例や動画を提示して、自己原因と対策を提示できる。